



南葵音楽文庫ミニレクチャー

上海工部局交響楽団(上海市管弦楽団)

—— 徳川頼貞による招聘計画の顛末 ——

南葵音楽文庫

和歌山県立図書館内
和歌山市西高松 1-7-38
tel.073-436-9500

林 淑 姫

2019年6月29日(土) 11:00

南葵音楽文庫閲覧室(和歌山県立図書館内)



マリオ・パーチ

Mario Paci (1878-1946)

『上海交响乐团建团120周年纪念画册』(1999)

徳川頼貞は関東大震災直後の1924年4月に上海を訪れた。「極東随一」と評判の高い上海共同租界の西洋人オーケストラ「上海市管弦楽団(Shanghai Municipal Orchestra)」(上海工部局交響楽団、上海工部局楽団 現・上海交響楽団)の日本招聘を期してのことであった(註)。当時日本のオーケストラ界は黎明期にあり、東京音楽学校、海軍軍楽隊、横浜居留地のアマチュア楽団、東京フィルハーモニー会管絃楽部(1915設立、解散)および頼貞も設立に参加した「東京シンフォニー管絃楽団」(1922設立)などがみられたが、常設のプロのオーケストラは存在せず、本格的なオーケストラ音楽が展開されているとはいいがたかった。頼貞は上海で指揮者マリオ・パーチと交渉を重ねたが、日程で折り合わず(頼貞は同年11月あるいは12月を考えていたが、楽団の楽季は10月から5月で海外公演は無理)、招聘計画は頓挫した。一方、翌1925年4月には、山田耕筰による「日露交驩交響管絃楽大演奏会」が開かれ、1927年、新交響楽団が誕生して、日本のオーケストラ運動は新たな展開をみせることになる。

註・記述は徳川頼貞『薈庭楽話』による。訪問は「大正十三年の春」とあるが、滞在中に聴いたチャイコフスキー《悲愴》の演奏会日が4月14日であることが判明したため(*North China Daily News* 1924.4.15 付 演奏会評)、「4月」と推定した。



上海交響楽団(1936)

マリオ・パーチ指揮

(上海交響楽団蔵)



上海租界

(1920年代)

[参考文献] 徳川頼貞『薈庭楽話』(春陽堂 1943)
榎本泰子『上海オーケストラ物語 西洋人音楽家たちの夢』(春秋社 2006) 井口淳子『亡命者たちの上海楽壇』(音楽之友社 2019)
『上海交响乐团建团120周年(1879-1999) 纪念画册』(上海交响乐团 1999) 王艶莉『上海工部局乐团研究』(上海音乐学院出版社 2015)
Floria Paci Zaharoff. *The Daughter of the Maestro*. New York, iUniverse, c2005

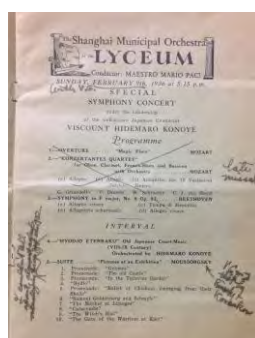


ライシャム劇場
Lyceum Theatre
(1940)

上海交響楽団略史

ー上海工部局交響楽団時代ー

1840～42年 アヘン戦争 1843年 上海開港 1845～49年 イギリス租界、アメリカ租界、フランス租界
 1863年 英米租界合併、共同租界成立
 1879年 上海パブリックバンド設立。1881年 共同租界工部局の組織に組み込まれる。
 1894～95年 日清戦争
 1914年 第1次世界大戦。青島における日独戦に、ドイツ人団員が従軍。エンゲルスら4人が捕虜となり板東収容所に収監
 1919年 イタリア人ピアニスト、マリオ・パーチ 上海でリサイタル。パブリックバンド指揮者に就任。
 1922年 工部局交響楽団（工部局楽団）と改称
 1923年 田邊尚雄、日曜コンサートを聴く。
 1924年 徳川頼貞との間に日本公演の計画。
 1927年 ベートーヴェン没後100年記念演奏会。最初の中国人団員に譚抒眞（ヴァイオリン）。国立音楽院（現・上海音楽学院）設立。
 1928年 夏の野外コンサート、中国人にも開放。シューベルト没後100年記念演奏会。
 1934年 定期演奏会場をライシャム劇場に移す。
 1936年 ベートーヴェン「第九」初演。近衛秀麿客演、《越天楽》演奏。
 1938年 山田耕筰特別演奏会。自作《日本組曲》指揮。
 1941年 日本軍、上海租界占領。
 1942年 工部局交響楽団お別れコンサート。以降日本の管理、運営下におかれ、上海音楽協会結成、「上海交響楽団」と改称。
 1943年 朝比奈隆、定期演奏会を指揮。
 1945年 日本敗戦。国民党政府のもとで、11月、「上海市政府交響楽団」として戦後初の演奏会。
 1949年 中華人民共和国成立。「上海市人民政府交響楽団」と改称。
 1950年 黄贻鈞（1915-1995）、初の中国人常任指揮者に就任
 1956年 「上海交響楽団」と改称



マリオ・パーチ（梅百器）

Mario Paci (1878-1946)

イタリアのピアニスト、指揮者。フィレンツェに生まれる。ナポリ音楽院卒業後、プッチーニの援助を受け、ミラノのG. ヴェルディ音楽院で作曲と指揮法を学ぶ。1918年、上海に演奏旅行のため訪れ、翌19年2月にピアノリサイタル、つづいてオーケストラ演奏会を開催、好評を博したことをきっかけに。同年9月、上海パブリックバンド指揮者に就任。ヨーロッパから演奏家を招聘するなど楽団の再編を図り、のち上海工部局交響楽団（上海市管弦楽団、上海工部局楽団、現・上海交響楽団）と改称されるこの楽団の常任指揮者として、1942年まで23年間活動。楽団を「極東随一のオーケストラ」に育てあげた。ピアティゴルスキー（チェロ）、ジンバリスト（ヴァイオリン）、エルマン（ヴァイオリン）などヨーロッパから訪れた名演奏家たちとの協演も多い。中国近代音楽史における彼の貢献は著しく、彼が在職した時代はしばしば「パーチ時代」と評される。中国人音楽家の養成にも努め、1927年、蕭友梅（1884-1940、作曲家、ライプツィヒ音楽院卒）らとともに中国で最初の音楽専門の国立高等教育機関「国立音楽院」（のち国立音楽専科学校、現・上海音楽学院）の創設にかかわり、多くの門下生を育てた。1929年、パリ留学を終えて帰国したヴァイオリニスト馬思聰（1912-1987、作曲家としても有名）を招き、協演、1930年には音楽院の同僚でもあった作曲家黄自（1904-1938、イエール大学卒）の序曲《懐旧》の初演も手掛けた。1946年8月、上海で死去。遺品および関係資料は長女 Floria Paci Zaharoff よりスタンフォード大学附属図書館に寄贈されている。なお、パーチは徳川頼貞の楽団招聘計画頓挫ののち、1933（昭和8）年11月単身来日、新交響楽団（現 NHK 交響楽団）を率いて、ベートーヴェン《交響曲第5番》などを指揮。

近衛秀麿客演(1936)

ムソルグスキー《展覧会の絵》、近衛編曲《越天楽》を指揮